

みんなの童話

おひるね



ねえねえ、みんなのほいくえん
もおひるねってあるの？

ぼくのほいくえん、おひるねが
まいにちあるんだよ。

でも、ぼく、おひるねだいきら
い。だって、きゆうしよくたべた
らすくおひるねなんだよ。

ぼく、いつもおしゃべりして
から、きゆうしよくたべるの、も
のすくおそいんだ。

だから、いつも、ともせんせ
いが、

「ゆうくん、あとらふんでおかた
づけだよ。もうたべれた？ はや
くたべてね」

っていうの。

そうすると、はやくたべようと
おもうんだけど、よけいのだにつ
まっただべれないの。だから、ね
るばしょは、いちばんすみっ。

ともせんせいは、みんなをね
かすつけようと、ほんをよんでく
れたり、うちわであおいでくれた
りするけど、それでもぼくは、な
かなかねむれないの。でも、みん
なすごいんだよ。まるで、ともこ
せんせいのまほうにかかったみた
いに、あつというまに、スースー、
ねむっていくんだよ。

みんな、もうねたんだ。でも、
ぼくはまだねむたくないもんねっ
て、うごいてると、

「ゆうくん、ごそごそしない。み
んなねたよ。ゆうくんもめをつ
むって」

と、ともせんせいが、ぷーとほっ
ぺをふくらませて、ぼくのかおに
せまってくる。

ウワーおこってるー、いそいで
めをつむるの。これがいつものこ
と。

あーあ、はやくおひるねのじか

んがおわらないかなあと、ごろご
るからだをうごかしていたら、と
なりでねていたみよちゃんが、

「ゆうくん、ねれないの？ そん
なとき、めをつむって、なにかた
のしいことおもいだして、ねむっ
たふりするのいいよ」

と、ないしょばなしでおしえてく
れた。

「ふーん。なにかたのしいことが
そうだねー・・・」

といいながら、めをつむってみた
んだ。しばらくするとね、めのま
わりがなにかほわーとあつたか
なつてきたんだ。

「あれっ、ぼく、プールでおよい
でる。すいすいおよいでる。あつ、
イルカもおよいでる」

「おーいイルカくん、いっしょに
およこっ」

「ウイ！ ぼくにつかまってもい
いよ」

「いいの？ やったー ぼく、お
よぎのめいじんになったみたいだ。
すこいすこい」

ぼくは、もつともつと、てをお
おきくかいておよいだの。そのと
き、

「いたい。せんせい、ゆうくんが
わたしのあしひっぱったー」

「ゆうくん、かよちゃんがいた
いってー」

ともせんせいのおおきなこえ。
「え？」

ぼくは、びつくりして、どうし
てって、おもった。だって、ぼく
は、イルカといっしょにおよいで
いたんだよ。

もしかして、ぼくは、ゆめをみ
てたの？

イルカとおもったのは、かよ
ちゃんのあしだったの？

ともせんせいかよちゃんの
こえで、おひるねからみんながお
きちゃった。

「ねえねえみんな、ゆうくんきよ
うねむったんだよ。ゆめをみてい
たみたいだから」

ともせんせいが、おおきなこ
えで、うれしそうにいった。

ぼく、おひるねきらいだったの
にねむったんだ・・・とおもっ
たら、となりのみよちゃんが、ぼ
くのかおみて、ニツとわらった。
ぼくもなんだかうれしくって、
わらったよ。

しろやま会員 ふじいのぶこ